

なりやまあやぐを謡い継ぐふるさとづくり (平成24年度認定)



旧城辺町に位置し各種補助事業が導入されている友利は、さとうきび・かんしょ・かぼちゃ等の生産が盛んな農村地域である。また、肉用牛(子牛)といった畜産業も盛んである。

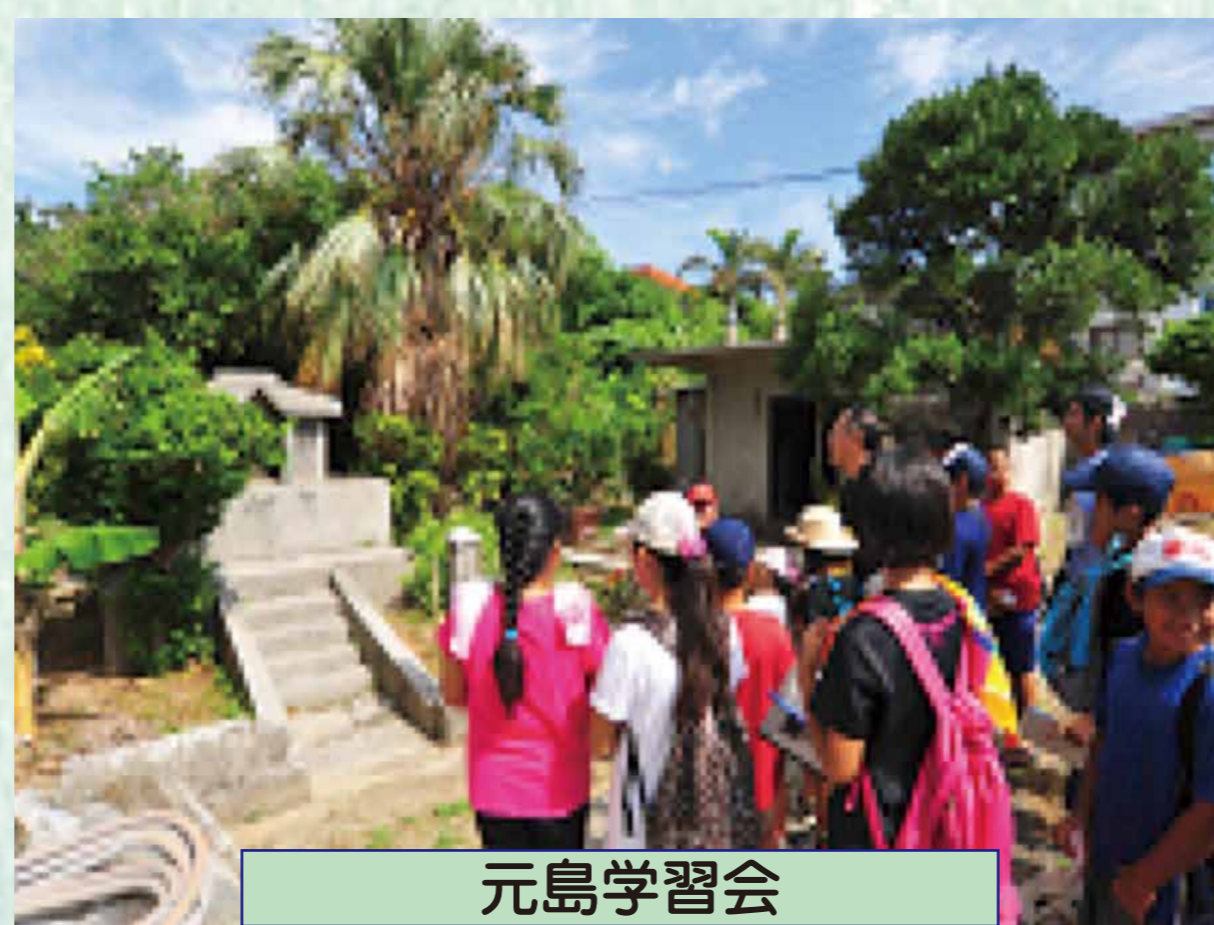
その中で、友利住民及び出身者からなる友利なりやまあやぐまつり実行委員会は、平成18年度より「なりやまあやぐまつり」を開催している。「なりやまあやぐ」は友利において日々の生活と共にあり歌い継がれてきた宮古島を代表する民謡であり、教訓歌としての内容を帯びている。

「なりやまあやぐまつり」は毎年9月に行われ、手作り灯籠や、海上に舞台を設置しサバニを浮かべる等の幻想的な演出により人気が高く、2000～3000人の来場者を誇り、2割程度が島外からの来場である。まつりでは、ゲストによる歌の披露に加えて、例年50名程度の一般参加者が予選に参加し、合格者がまつり(本選)で歌を披露でき審査基準に達した人には賞が贈られる。島外からの参加者も3割程と多い。その他にも、地域の子供も達に歴史的文化財が多く残る友利をより知ってもらうために、子供たちを対象とした元島学習会もまつりと並行して行っている。

このように、本会は、「なりやまあやぐ」という伝統文化をテーマとしたイベントを通じて、地域内外の交流に寄与している等、【なりやまあやぐを謡い継ぐふるさとづくり】に取り組んでいる。



予選の準備する一般参加者



元島学習会



元島学習会



「なりやまあやぐまつり」の様子



「なりやまあやぐまつり」の様子



「なりやまあやぐまつり」の様子